

7/28 月

# 介護現場 備え急務

相次ぐ豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大を受け、厚生労働省が災害や感染症への備えを介護保険事業計画に盛り込むよう自治体に求めた。感染リスクが高い上、有事に自力では避難できない災害弱者が暮らす介護現場の対策は急務。今後自治体が本腰を入れることになるが、専門家は「市区町村を越えた広域の対応が必要」と課題を挙げる。

## 事業計画に「コロナ・災害対策」

- 特別養護老人ホーム「千寿園」の入所者を、ボートに乗せ救出する自衛隊員ら=4日、熊本県球磨村で(陸上自衛隊西部方面隊提供、一部画像処理)
- ①防護服やフェースシールドを着用して入所者の食事を介助する、「北砂木ホーム」の職員②=5月



会福祉法人あそか会の古城  
「北砂木ホーム」。運営する社  
別養護老人ホーム(特養)

「初めてのことなのでやむを得ないが行政の対応は揺れた」。新型コロナで四月にクラスター(感染者集団)が発生した東京都江東区の特別養護老人ホーム(特養)

### ■ 最低限

資久理事長は当時を振り返る。計五十人以上の感染者が出で、職員も大部分が自宅待機に。「どうすればいいのか」と尋ねても「最低限のケアでやってください」と言われるだけで、途方に暮れた。

結局、法人関係の応援職員を集め乗り切った。「第二波、第三波に向け、行政には医療支援体制や職員の出勤停止の条件などを検討し、示してほしい」と求める。

### ■ リスク

共同通信が五月に行つた調査では高齢者の入所施設で新型コロナに感染した入所者、職員は少なくとも計七百人

で、うち死者は七十九人に上った。マスクや防護服、消毒液などの物品不足も深刻だった。

豪雨災害や台風でも介護現場の被害が後を絶たない。厚生労働省の担当者は二十七日の会議で「多くの施設で避難計画を策定できていると思つ」としたが、七月豪雨では寺崎

職員の大半を解雇する」とだが、運営法人側への取材で分かった。現地は洪水で再び浸水する恐れがあることや、移転先の土地を確保できる見通しも立たないためだ。

「千寿園」(熊本県球磨村)が浸水し、十四人の高齢者が犠牲になつた。ある特養関係者は「今後は災害に加え新型コロナウイルスのリスクとも長く付き合つていく必要があり、行政とともに危機対応を考え直さなければいけない」と話す。

### ■ 実効性

厚労省は今回、施設職員の研修や防護具備蓄に加え、施設間で職員の応援体制を築いておくとの必要性も指摘した。

## 千寿園、再開断念

熊本県南部の豪雨で入所者十四人が犠牲になった球磨村の特別養護老人ホーム「千寿園」が事業再開を断念し、職員の大半を解雇する」とだが、運営法人側への取材で分かった。現地は洪水で再び浸水する恐れがあることや、移転先の土地を確保できる見通しも立たないためだ。

## 識者「広域での対応必要」



既に取り組みを始めた県もある。神奈川県は福祉施設でクラスターが発生した場合に派遣可能な職員を事前に登録し、旅費や宿泊費を県が負担する仕組みを作った。百人超が登録済みで、有事に備えていた。

### ■ 介護計画

介護計画に災害対策を盛り込むことについて、東洋大の高野龍昭准教授(高齢者福祉)は「近年の大規模災害の多さや、高齢者が感染リスクに弱いという点を踏まえると評価できる」と話す。一方、災害や感染症は広域での対処が必要なため「市区町村が単独で対応するのは難しく、都道府県の支援がなければ実効性は期待できない」と指摘した。